

4. 子育ての状況と育児意識

4-1. 末子の学齢(Q12)

【男性】

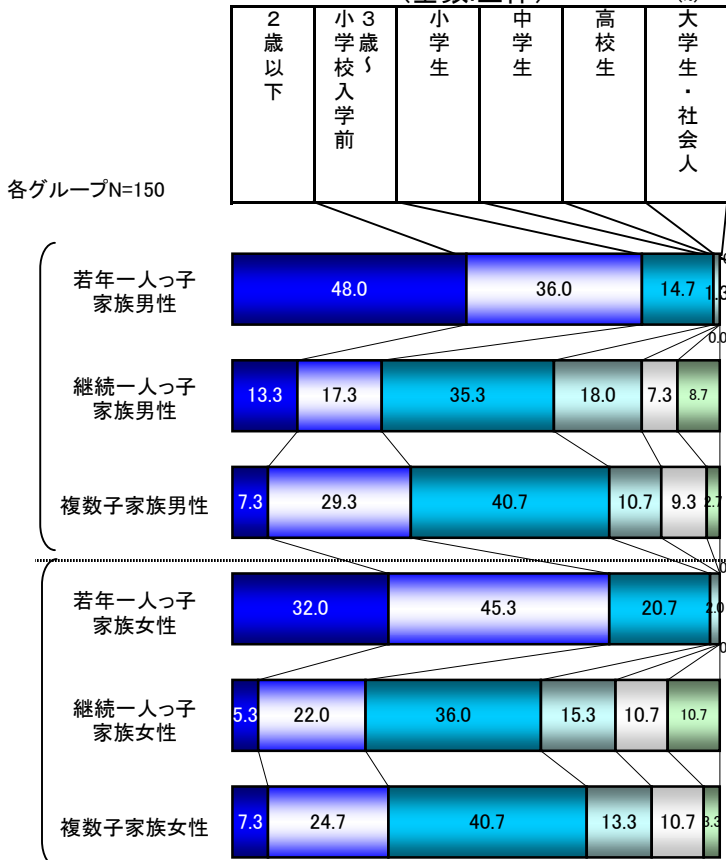
【若年一人っ子家族】では、「2歳未満の乳幼児(48.0%)」「3歳以上の未就学児(36.0%)」が多く、まだ子どもは小さいが、【継続一人っ子家族】、【複数子家族】では、「小学生以上の子ども」が多くなっている。

「末子が小学生以上」の割合は【複数子家族】より【継続一人っ子家族】の方が高く、どちらかといえば【継続一人っ子家族】の方が末子の年齢は高い。

【女性】

「末子が未就学児」の割合は【若年一人っ子家族】では8割近くに達し、【継続一人っ子家族】、【複数子家族】との差が見られる。

図表4-1. 末子の学齢(単数回答)
(基数:全体) (%)



図表4-1. 子どもの学齢(複数回答)

	0歳以下	3歳以下(小学校入学前)	小学生(1年~3年)	小学生(4年~6年)	中学生	高校生	大学生	社会人
若年一人っ子家族男性	48.0	36.0	14.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
継続一人っ子家族男性	13.3	17.3	20.7	14.7	18.0	7.3	6.0	2.7
複数子家族男性	7.3	35.3	43.3	39.3	38.7	22.7	5.3	8.7
若年一人っ子家族女性	32.0	45.3	15.3	5.3	2.0	0.0	0.0	0.0
継続一人っ子家族女性	5.3	22.0	18.7	17.3	15.3	10.7	7.3	3.3
複数子家族女性	7.3	30.7	40.7	49.3	30.7	28.7	16.0	10.7

4-2. 子どもの世話の担当者(Q13)

【男性】

夫が主体的に行っている子どもの世話は『お風呂に入れる』ことだけであるが、『遊び相手になる』『勉強を見る』『おむつを替える』に関しては夫も妻とともに行っている。

『保育園の送迎』『おむつを替える』のは妻の役割になっている。

夫が子どもの世話に参加する割合は概ね【若年一人っ子家族】が高い。

同年代の【継続一人っ子家族】と【複数子家族】をみると、どちらかといえば【継続一人っ子家族】の方が参加率は高い。

【女性】

男性同様の傾向があり、夫が子どもの世話に参加する割合は【若年一人っ子家族】が最も高く、次いで【継続一人っ子家族】、【複数子家族】となる。

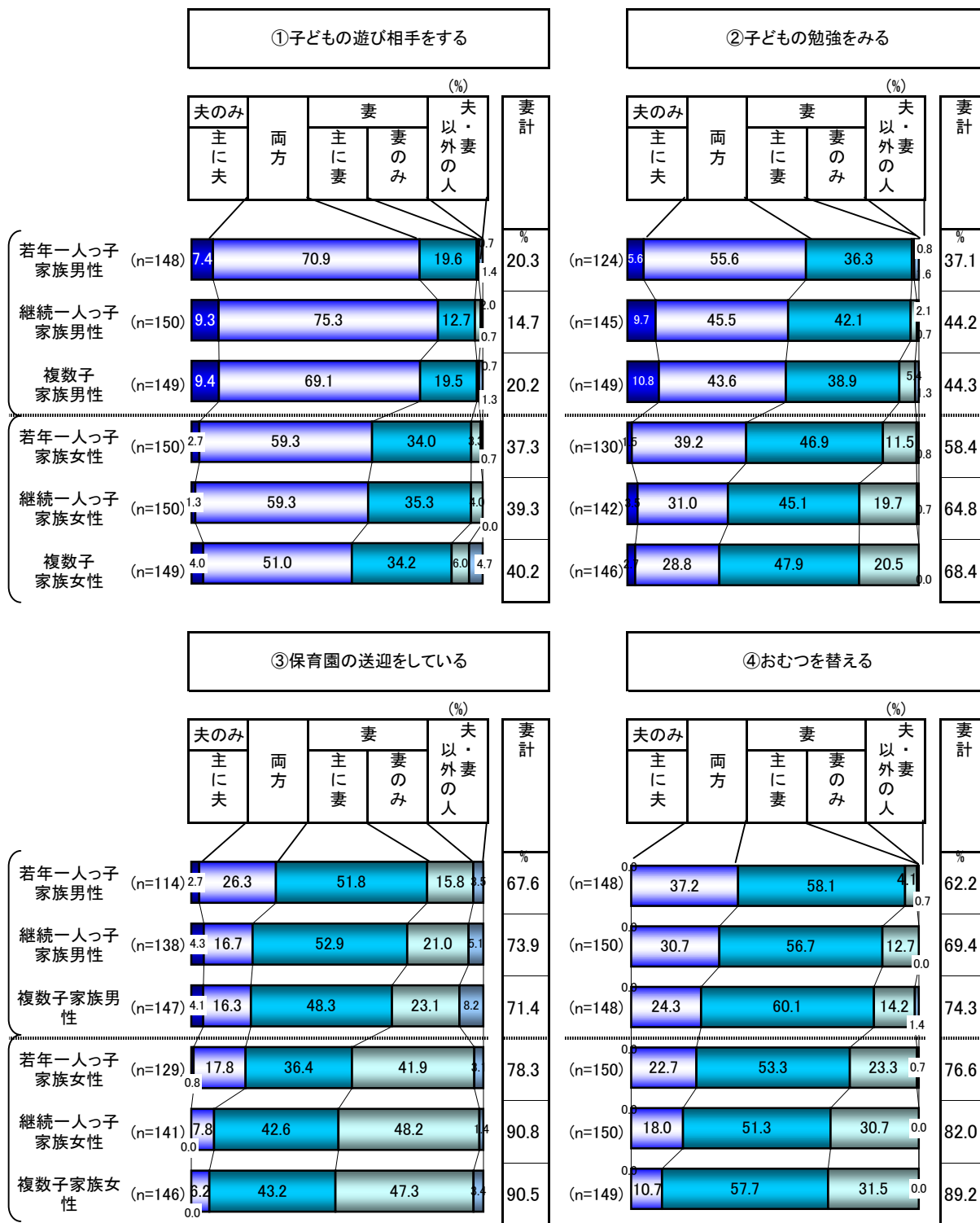
女性が判断する夫の参加率は男性本人が判断する比率より低く、事実認識に乖離がみられる。

図表4-2-1. 子どもの世話の担当者(単数回答)(基数:無回答者除く)

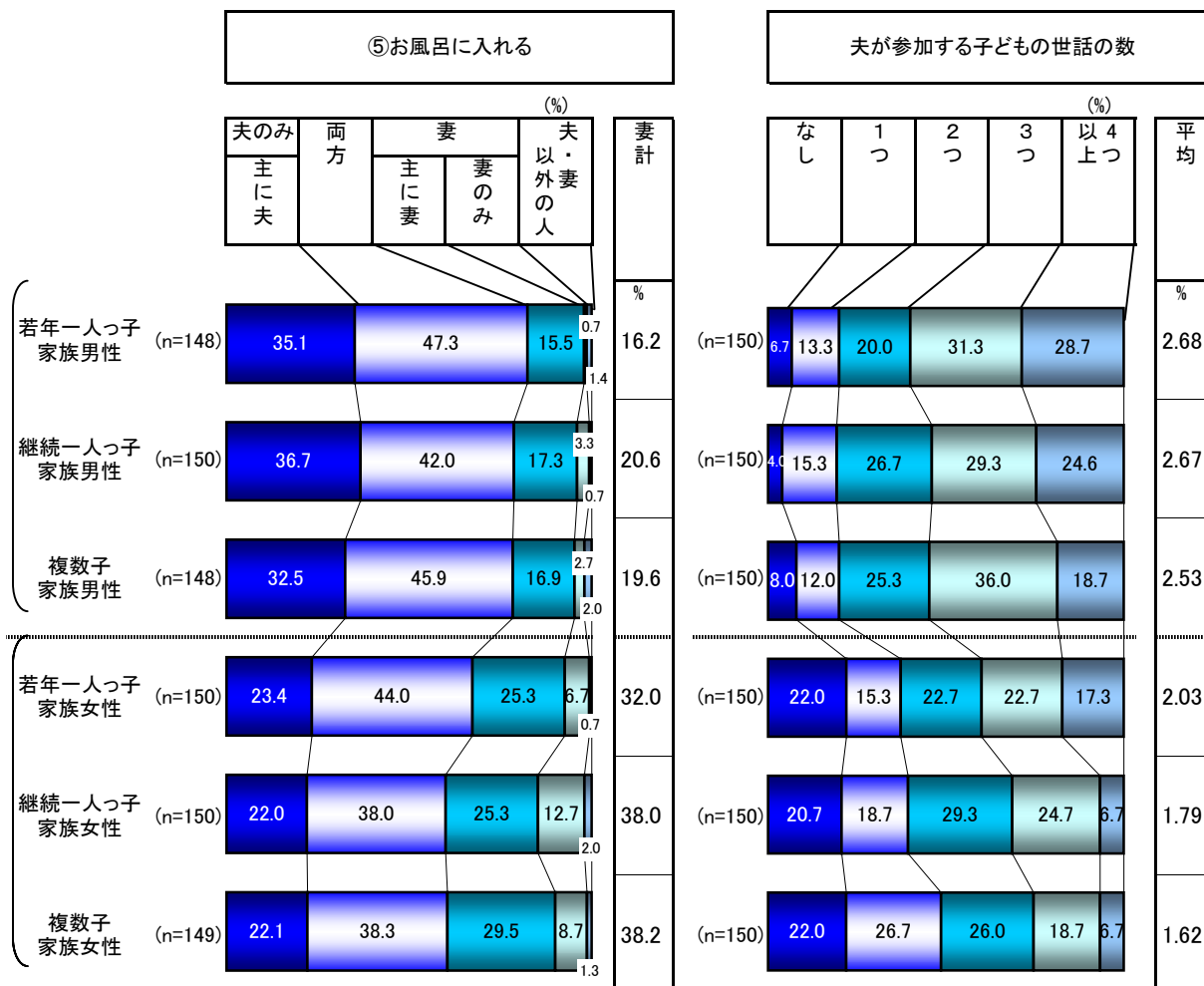
	「夫が行う」割合					「夫が行う」+「夫と妻の両方が行う」割合				
	子どもの遊び相手をする	子どもの勉強を見る	保育園の送迎をする	おむつを替える	お風呂に入れる	子どもの遊び相手をする	子どもの勉強を見る	保育園の送迎をする	おむつを替える	お風呂に入れる
若年一人っ子家族男性	7.4	5.6	2.6	0.0	35.1	78.3	61.2	28.9	37.2	82.4
継続一人っ子家族男性	9.3	9.7	4.3	0.0	36.7	84.6	55.2	21.0	30.7	78.7
複数子家族男性	9.4	10.7	4.1	0.0	32.4	78.5	54.3	20.4	24.3	78.3
若年一人っ子家族女性	2.7	1.5	0.8	0.0	23.3	62.0	40.7	18.6	22.7	67.3
継続一人っ子家族女性	1.3	3.5	0.0	0.0	22.0	60.6	34.5	7.8	18.0	60.0
複数子家族女性	4.0	2.7	0.0	0.0	22.1	55.0	31.5	6.2	10.7	60.4

注:n数は各領域によって異なる。

図表4-2-2. 子どもの世話の担当者(単数回答)(基数:無回答者除く)



図表4-2-3. 子どもの世話の担当者(単数回答)(基数:無回答者除く)



*「子どもの遊び相手/勉強を見る/保育園の送迎をする/おむつを変える/お風呂に入れる」という5つの世話の中で「夫が行う」+「妻と夫の両方が行う」と答えた数を算出した

4-3. 育児の負担感(Q14)

4-3-1. 本人の育児負担感

【男性】

育児の負担感を感じている人は【若年一人っ子家族】に多いが、それでも4割弱に留まっている。

【女性】

女性の場合は、配偶者があまり育児に参加していない【複数子家族】で負担感が強くなっている。

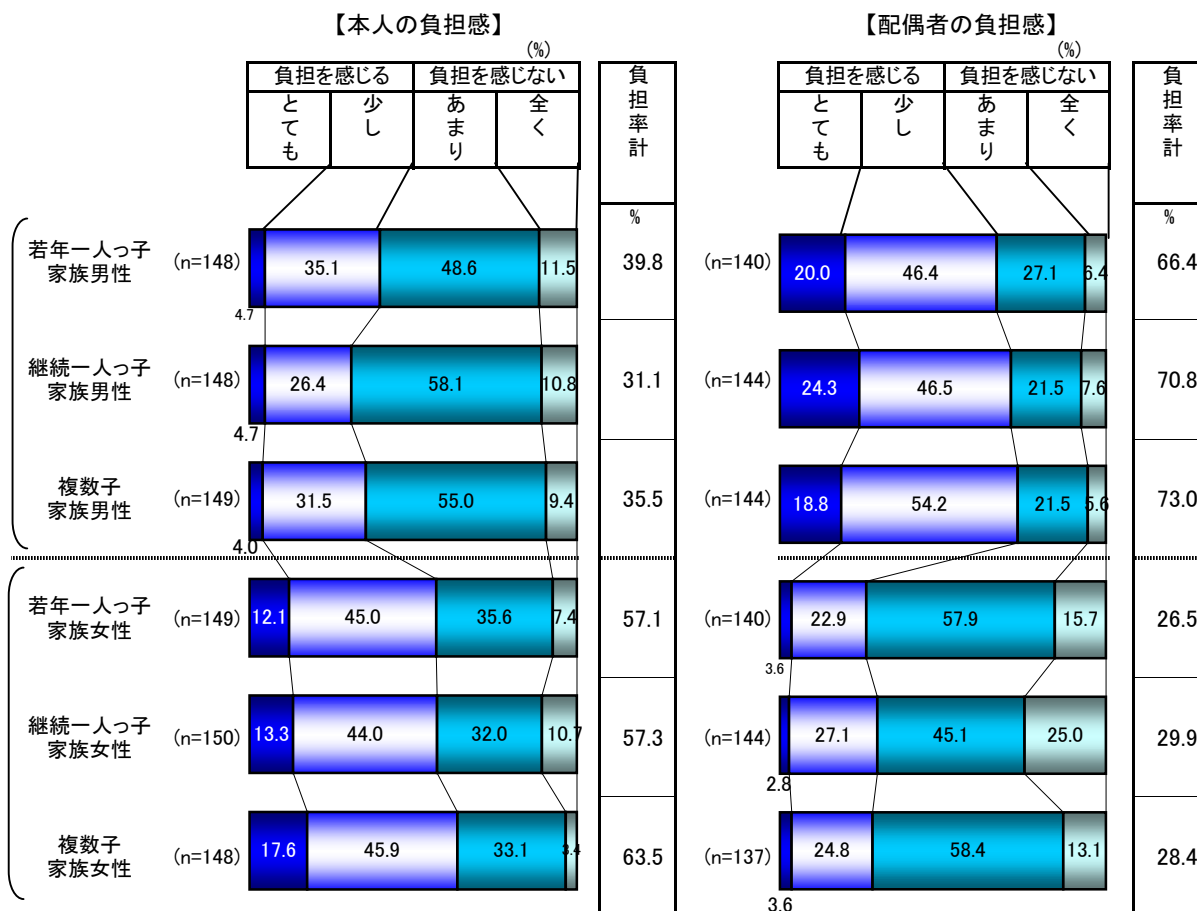
4-3-2. 配偶者の育児負担感

男性の判断した配偶者の負担感は女性本人が感じる負担感より強い。

(特に、【継続一人っ子家族】でその差が大きい)

	男 性		女 性	
	男性本人 の負担感	女性が判断 夫の負担感	男性本人 の負担感	女性が判断 夫の負担感
若年一人っ子家族	39.9	> 26.5	57.1	< 66.4
継続一人っ子家族	31.1	> 29.9	57.3	< 70.8
複数子家族	35.5	> 28.4	63.5	< 73.0

図表4-3. 育児の負担感(単数回答)



4-4. 育児に関する意見

4-4-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多はずだ』に対する意見(Q9-⑤)

【男性】

子育ての楽しさに関しては、どのグループも大半が認めており、大きな違いはないが、【継続一人っ子家族】には否定者が2割弱ほど見られる。

【女性】

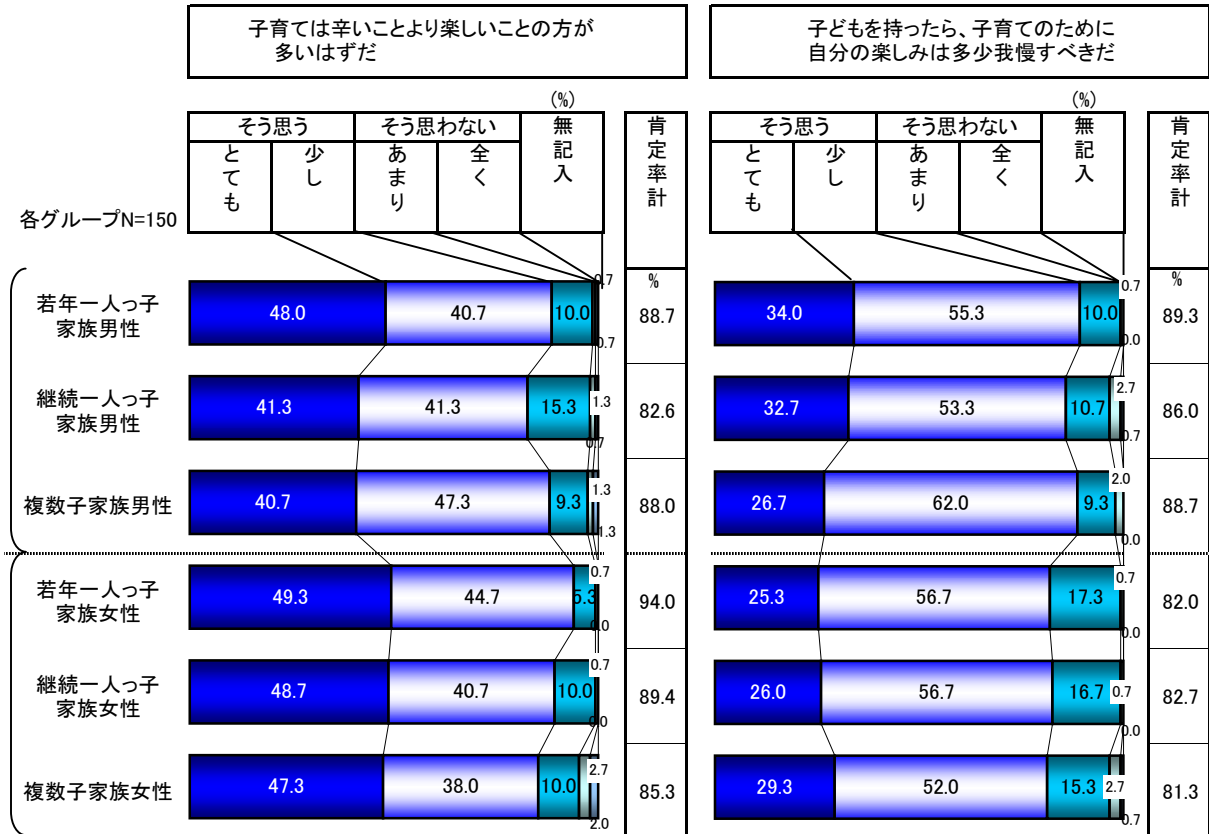
子育ての楽しさに関しては、どのグループも殆どが認めている。特に、【若年一人っ子家族】では、肯定者が94.0%にも達する。

4-4-2. 『子どもを持ったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ』に対する意見(Q9-⑥)

【男性】【女性】

男女とも、どのグループでも肯定者が大半を占め、否定する人は2割に満たない。但し、積極的な肯定ではなく、「少しそう思う」という消極的肯定に留まっている。

図表4-4-1. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



4-4-3. 『母親の仕事の有無にかかわらず、誰でも必要があれば

保育所やベビーシッターなどのサービスを利用すべきだ』に対する意見(Q9-⑩)

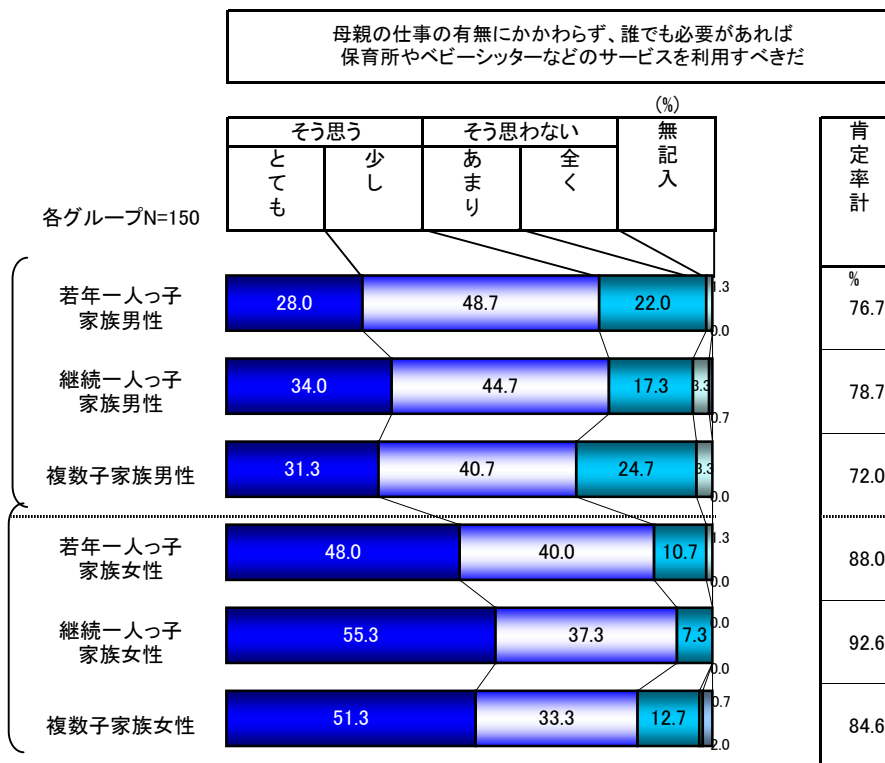
【男性】

どのグループも7割台が肯定しているが、積極的に肯定する人は3割前後に留まる。
特に、【若年一人っ子家族】には積極的な肯定者が少なく、3割に満たない。

【女性】

どのグループも大半が肯定しており、しかも積極的肯定者が半数前後を占めている。
積極的肯定者が幾分少ないのは、【若年一人っ子家族】であり、男性同様の傾向が見られる。

図表4-4-2. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



4-5. 子どもに受けさせたい教育水準(Q16)

【男性】

「義務教育終了後は子どもの意思を尊重したい」と答えた人の割合は【若年一人っ子家族】が44.7%、【継続一人っ子家族】:31.3%、【複数子家族】:24.7%で、ライフステージが上がると少なくなり、逆に、「大学までの教育は受けさせたい」と答える人の割合が増えている。

【女性】

男性同様の傾向が見られる。

図表4-5. 子どもに受けさせたい教育水準(単数回答)(基数:全体)

